

2016 年度活動報告 CJP 授業： プロジェクトワーク 書くA

内藤 真理子（神田外語大学留学生別科）

1. クラス概要

本クラスの対象は、中級前期から上級後期までであったが、受講したのは中級前期と中級後期の学生のみで、合計5人であった。1週間に3コマあり、3人の教員が担当した。クラス目標は「文章で表現する作品制作を学期の課題とし、課題達成のための話し合いや作品作りを通じて、総合的な日本語力を身につける」である。

2. 授業内容

本授業では辞書の作成を行った。初回、紙の辞書を使って、構成や語釈の書き方を理解させ、その後、第2～5回の授業において観光案内の本からある基準に基づいた見出し語を抽出させ、ミニ辞書を個人で作成させ、発表を行った。第6回の授業では、『方言辞典』や『物の数え方辞典』などを使って様々な種類の辞書があることを理解させたうえで、最終課題として作成させるオリジナル辞書の構想を宿題として課した。第7～12回の授業ではオリジナル辞書の作成を進め、第13回の授業で発表準備をし、最後の第14回の授業で「プロジェクトワーク書くB」との合同授業を行った。この授業には、受講生ではない留学生にも参加を促したが、参加者は1人だけであった。ミニ辞書とオリジナル辞書はルーブリックを作って評価を行った。評価の観点を6つ設け、そのうちの5つは教員側が決め、残りは各個人、もしくはグループで決めさせた。

3. 成果と今後の課題

ミニ辞書の作成は、学生の希望により個人で行わせたが、本授業の目標には課題達成のための話し合いが含まれているため、オリジナル辞書はグループで作成させることにした。このことにより、話し合いでアイデアをわかりやすく言語化し、お互いの意見をすり合わせる経験をすることができ、また、授業に来ることの意義づけがしやすくなった。学期末アンケートで授業への満足度を聞いた結果、「満足している」が3人、「まあまあ満足している」が2人であり、目標達成度も同様に「できた」が3人、「少しできた」が2人であった。今後の課題の示唆となる記述としては「たくさんの辞書を見たい」「もっとアドバイスがほしい」「時間がかかった」である。今後は、図書館ツアーで自ら辞書を探して実際に手に取る時間を設けること、見出し語の数を少なくすることで語釈や例文を吟味する時間を多くとることなどを検討していきたい。